

新潟市秋葉区文化会館指定管理者申請者評価会議

プレゼンテーション 議事録

日 時：平成 29 年 10 月 11 日（水曜）午後 2 時～4 時 45 分

会 場：秋葉区役所 6 階 ホール

出席者：評価委員 菊野麻子，杉浦幹男，徳永良雄，山田秀樹

事務局・司会 秋葉区役所地域課

傍聴者：5 名

司 会 定刻となりましたので、新潟市秋葉区文化会館指定管理者申請者評価会議の公開プレゼンテーションを始めます。団体 A の提案者の方は入室ください。プレゼンテーションの時間は 20 分です。始めてください。

団体 A プレゼンテーション（省略）

団体 A 質疑応答

司 会 続きまして、質疑応答に入ります。ただ今の説明について、質問がありましたら挙手にてお願いいたします。

山田委員 ありがとうございます。それでは質問させていただきます。秋葉区文化会館の魅力はどうとらえていらっしゃるかということと、秋葉区文化会館の価値をどうとらえられているか教えていただきたいと思います。

団 体 A まず、文化会館もそうなのですけれども、秋葉区という立地が、里山を中心とした自然、それと花も魅力だと思います。文化としましては、伝統的な新津松坂でしたり、様々な伝統芸能がございます。何よりも私たちがテーマとして掲げる鉄道といったものも、すごくいい財産だと思っています。

そういった文化的な財産、自然というものが周りにある立地の会館というのは、とても魅力を感じておりますので、私たちはその立地条件、席数も、実は新潟市というのは、りゅーとびあが中心にありまして、各区ごとに同じくらいの席の館があります。これの役割というものを私たちは十分考えているつもりです。大がかりな事業、1,000 人を超す、それこそ東京から立派な名前の知れた方々を招聘する事業は、りゅーとびあが主な役割だと思っています。それよりも、ここ秋葉区や各区にある会館というのは、地元の方々がいかに文化に親しんでいただいて、自ら活動をする、そういった場としての役割が大きいのではないかと考えていますので、今回、ミュージカルを中心

とした市民の方々と一緒に作り上げるという部分に重きを置いた提案をさせていただきます。

山田委員 ありがとうございます。もう一つお願いしたいと思います。秋葉区文化会館は40%（の利用率）ということでしたが、ここ文化会館に来る人が増えなければ、いろいろな事業を展開されても、なかなか難しいのかなと思うのですが、いかにして周知徹底、あるいは広報等をされるか、今のところでは説明がなかったかと思うのですが、いかがでしょうか。

団体 A 広報につきましては、私たちが管理している施設が近隣にたくさんございます。そちらの会館とも連携しながらチラシの配布や、私たちは、まず自分たちの足で各事業所でしたり施設を回ってチラシを配るということを北区においてもやってみりました。それが一番の広報活動になるかと思えます。

それと、先ほど教育育成事業でお話ししましたが、アウトリーチ・ワークショップはとても重要な役割を持っていて、それを通じて実際、興味がなかった方々におきまして、私たちが出向いていくことによって、面白味を肌で感じていただいて、自ら足を運んでもらうという方向につなげていきたいと思っています。

市民ミュージカルというのは、そこに出演する方々だけではなく、そのご家族の方々も取り込むことができます。自分の孫が出ているので私も行こうかなという形で、一人が参加すれば2倍、3倍に広がっていく事業だと思っています。そういった取り組みをすることによって、ぜひとも多くの人たちに秋葉区文化会館の魅力を知っていただきたいと考えています。

山田委員 ありがとうございます。

菊野委員 今ほどの広報に関するものに重複する部分があるのですが、こちらの会館を利用したことがない、もしくは地元の人以外の方に利用してもらうために、何か効果的なPRであったり、事業展開というのは考えていらっしゃいますか。

団体 A 私たちは県外とか市外、近隣の市の方々にもということで、私たちはロゴの作成だったり、キャラクターの作成、また愛称を付けましょうということをしています。これは、ただ単純に私たちが勝手に決めるものではなくて、皆さまに募集して皆さまの中で案を出していただいて決めるということをしてと思っています。そうすることによって、自分が付けた愛称が、また自分たちが考えた会館に足を運んでみようとなっていたらいいかなと思います。

菊野委員 愛称以外で、要は文化事業に余り興味・関心のない方をこちらに引き寄せられるような。

団体 A 先ほどもお話ししたアウトリーチが一番かと思えますし、私たちの他館、他市でやっている会館もございます。そういったスケールメリットを使いながら、広報も大きな形で広告展開することも可能ですので、メディアを利用した展開ももちろんのこと、先ほどお話ししたアウトリーチに力を入れていく。今までの会館でやられてきたアウトリーチの本数よりも、私たちは多く展開するつもりでございます。また、先ほどお話ししたように学校だけでは

なくて、やっぱり福祉施設でしたり、なかなか自ら足を運ぶことが困難な方々にも、ぜひとも文化の楽しさといったものを自ら出向いて行って伝えたいと考えております。

菊野委員　　そうすると、福祉施設等にも出向くということも考えていらっしゃる。広報の事業計画のところに、ロコミ作戦を行いたいと書いてありましたけれども、このロコミ作戦は具体的にどのように進めていこうと考えていますか。

団体 A　　実際に私たちは先ほどスライドでは出しましたけれども、アドバイザーを設けています。ただ、アドバイザーの場合は、実は商店街の方々にアドバイザーになっていただく予定をしているので、そういった方々にも協力していただいて、私たちの会館の良さ、また事業の良さ、そしてパートナーショップというものも並行して展開する予定にしております。それも、また商店街の方々のご協力もあって成り立つものなのですけれども、実際に半券を持って行くとコーヒーがサービスされるとか、そういった工夫をしながら、そこで出た生の声、もうちょっとこういう事業をやった方が良かったよというものをぜひとも商店街の方々を通じて、また、自らアンケートを取るような形で生の声を聞きながら、それを反映させていくという形で考えております。

菊野委員　　最後にもう一点なのですけれども、現状、こちらで取り組まれている様々な事業を見ていて、課題に感じていること。その課題を改善するためにご提案していることがあれば、手短にお願いいたします。

団体 A　　やっぱり課題といいますのは、一番最初に述べました利用人数が増えている反面、文化に精通している人は伸び悩んでいるのではないかとこのところ、そこを改善することが一番の課題だと思います。この5年間で文化会館をより身近に感じていただいたと思っています。ただ、やっぱり一つ自分が活動する上で壁があるといいますか、大きな隔たりを感じている方々もいると思うので、そういったものの垣根をなくすような事業展開を考えていきたいと思っています。

杉浦委員　　今の課題に関することで、若干意地悪かもしれないのですが、秋葉区の文化の課題は、先ほど鉄道の話とかをされていたと思うのですが、だいたい今の話は新津の話ですよね。新津以外の地域もあって、新潟市全体もそうですけれども、それぞれの文化というものを持っていて、それぞれの課題がどうなっているのかということに対するご対応はご検討されておられるのですか。

団体 A　　もちろん小須戸地区や様々な地区がありますので、そういったところにおきましても、しっかりとカバーしていきます。それは、今の事業でありますけれども、歌と踊りの芸能祭でしたりとか、それは市民の方々が率先してやっていることです。そういった形で、それも私たちは継続しますし、私たちが掲げた市民協働の一環、企画制作グループへそういった方々に入っただけでなく、各地区の方々にももちろん平等に、また先ほどからお話ししています、アウトリーチです。それがやっぱり大きいと思っていますので、決して新津地区だけではなく、小須戸でしたりとか各地区に足

を運んでいただくことが重要だと思っています。

実際に、私たちは上越という地区も担当していますけれども、上越は大きい範囲ですけれども、山を越えて、私たちが車で走って、大きな楽器を運んで、実際に聴いていただく。それがやっぱり何よりの広報活動といいますか、文化を身近に感じていただくポイントではないかと考えています。

杉浦委員 余り鉄道、鉄道と言うと嫌われると思いますので。

もう一つなのですけれども、人員についてなのですけれども、これだけたくさんさんの新しい事業をやられたり、アウトリーチ活動に取り組みられるためには、相当優秀な人材を確保しなければ難しいと思うのですけれども、そういった担い手の確保、もしくは人材を中で育成していくということについて、何かご見解があれば教えてください。

団体 A 人員体制につきましては、館長は私たちの方で既に決めさせていただいて、新しく候補者を挙げております。ただ、他の館長以下につきましては、今、働いていらっしゃる方々もおりますので、そういった方々で、もし希望される方がおられればぜひ、面談をした上ですけれども、雇用することを考えています。また、新たに雇用するという部分におきましては、私たちの方でしっかりとした、先ほどのお話のあったカリキュラムなどがございますので、本当にやる気のある方々でありましたら、ぜひとも皆さんに手を挙げていただいて、秋葉区を中心に、新潟市の方々を優先に雇用していきたいと考えています。

一方で、事業が肝になってきます。事業につきましては、私たちの方で他の館もやっていますので、他の館からの人材を最終的に回すということも考えています。候補者はいますので、実際に私たちを選んでいただいた際には、その後に面接等をやっていく中で、適材な人材がおられれば継続雇用しますし、そうでなければ募集をかける。ないしは自分たちが今、一緒に働いているメンバーをそちらに移すということを考えています。

杉浦委員 今、ご提案されている事業というのは、そんなに新しいものではないと思うのです。事業自体が目新しいわけではないと。ただ、それを丁寧に実行するのは非常に難しいものばかりだと思うのですけれども、その辺の実効性についてのお考えをお聞かせいただけますか。

団体 A 私たちはアドバイザー制度を設けています。舞台についてのアドバイザー、そして運営全体のアドバイザー、また地域の方々の声を受けるアドバイザーという形のアドバイザー制がありますので、それら専門のアドバイザーをフォローアップすることがまず一つ。それと、他館の館長との定期的な館長会議を開いていますので、各エリアごとで抱える問題、または今求められているニーズは何かということを定期的に意見交換する場を私たちは設けています。同じ新潟県におきましても多少温度差があったり、同じ新潟市においても、多分出てくると思います。土地柄が違えば、ちょっと通いにくいという問題があったり、このエリアの方々にはなかなか来ていただけないとか、そういった問題を共に、一緒になって解決する仲間が大勢いますので、ご安心

いただければと思います。

杉浦委員
地域課長

ありがとうございます。

それでは事務局からですが、提案いただいております指定管理料の額が、私どもの示している上限額と同額となっておりますが、こんな話もあれなんですけれども、市の財政状況によりましては、指定管理料の減額をお願いする可能性もあるのですが、それについてはどうお考えですか。

団体 A

私たちが提案させていただいたのは、あくまでも私たちの希望額でございますので、状況によって協議させていただいた後に、私たちのできる範囲で削減するということはあるかと思えます。ただ、上限額いっぱいというのは、私たちなりに削減した結果です。やっぱり、これだけの本数の事業を展開するに当たって、また、よりよいサービスを皆さまにご提案するに当たっては、今、提示した金額が妥当だと私たちは考えております。

地域課長

愛称とロゴに関して、市民から募集をしてということですが、仮定の話になって申し訳ないのですけれども、仮にそちらが指定管理者となって運営をされて、愛称を作ったとして、その後、指定管理者が5年後に違うところへまた変更になった場合の取り扱いは、どのようにお考えですか。

団体 A

これは、私たちが募集をかけて決めさせていただくのですけれども、最終的に指定管理者が変わった時には、それは市の皆さまの方に一任するというか、私たちの方では押し付けるわけにいかないと思うのです。次の指定管理者の方々がこれを受けないということになれば、それは私たちは無理に言えないと思えますので。

司 会

他に、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上で、質疑応答を終了いたします。ありがとうございました。団体Aの提案者の方はご退席ください。

(休憩)

司 会

それでは、公開プレゼンテーションを再開します。団体Bの提案者の方は入室してください。

プレゼンテーション時間は20分です。それでは、始めてください。

団体B プレゼンテーション（省略）

団体B 質疑応答

司 会

続きまして、質疑応答に入ります。ただ今の説明について、ご質問がありましたら挙手にてお願いいたします。

山田委員

秋葉区文化会館の魅力を、どのようにとらえていらっしゃるのか。あるいはまた価値をどのようにお考えになられているか、教えていただければと思います。

団体 B

質問ありがとうございます。まず、魅力でございますけれども、デザイン的にはグッドデザイン賞並びにいろいろな賞を各賞受賞されていますので、すごい建物です。デザインだけで人が来るかという、そうでもないし、維持管理も大変です。問題はソフトでございます。一つ魅力という点で言うと、私が初めてこちらを訪れて見た時に、すばらしい緑の芝生といいますか空間と建物の良さ、隣の第一中学校を含めて区役所へ至るまでの地理的なロケーション、鉄道のまちであるということ、近くに里山もあるということを含めまして、文化会館の魅力というのは、自然の中に包まれた大きな館というイメージを持っております。

もう一つ、文化的な価値だけで言いますと、8区の中で文化会館は北区、江南区、秋葉区とありまして、その順番は別として隣にりゅーとぴあ、県民会館が中央区にあります。私たち文化をやっている者から言うと、長岡にリリックホールがございます。700席、1,300席、2,000席という大きなホールの中で500席という規模の価値。今、映画館のサイズが大きなところでは、シネコンといわれるところで500人くらいの収容スペースで、いろいろな活用をしようとしている。そういうのに適当なサイズなんです。1,000人を集められるような事業を組むということは、相当な苦勞がいます。500人集めてフルで回転していくことの効率性、それとホールの中の音響設備、音楽堂に近いものがあるということになっています。

それから新潟市の中の建物で、私の記憶するところによりますと、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律ができて以降、初めてまともな会館を建てたのがここだと記憶していますので、そういう意味では今まで根無し草だったのが、法律に基づいた根拠法のある会館だと思っていますので、そういう意味では、新製の法令に基づいたホールということでございます。その辺の魅力を最大限に発揮し、私自身もそのように努めたいと思っております。

それから価値につきましては、ここも新しいうちの価値ではなくて、クラシックになってから、5年、10年経ってから、すごい価値が出るのではないかなと実は秘かに期待しております。なぜかといいますと、周辺のマーケティングをやりますと、長岡とか中央区もそうなのですが、どういう形で人が流れていくか、どういう人の行動をとらえていくかという、高齢化社会の中で、地元に行ける場所があればいいことと、今、若い世代に我々がいろいろな魅力ある芸術をどんどん提供していくことによって、若者回帰が起こってくるのではないかと、そういう形での魅力と価値を我々が付けていきたい。文化でよく言われる固有価値というのを、これから付けられればなど。そういう意味で、非常に期待度の高い会館だと思っております。

山田委員

ありがとうございました。もう一つお願いしたいと思いますが、今現在、運営されていく場合の課題を、どのようにとらえられているか。それを改善するための事業や計画は、どのようにお考えなのか教えていただければと思います。

団体 B

一つは、地元の参加者、利用者の方々に偏りがあるかなど、これは文化会

館側からのアプローチの弱さというのと、文化会館の魅力をお互いに引っ張ったり出したりする緊張感がまだないのかなと思います。我々B団体のところは、それをつなげる仕事柄、職員を持っておりますので、そこに我々が加わることによって接着剂的なところ、吸収したり離したりということが出来るかなと思っていますが、課題は文化会館に、冒頭で申し上げたとおり、まだ足を運ぶ人が少ない。離れて改めて、いろいろな人と交流したりしていると、まだそういう人は周りにいるよという話がございまして、その辺のところを、これからどのようにもっていくかという。課題というと、その接着剤役がなかった。その穴を、溝を埋めるというのが我々の使命であると。

それから、もう一つは建物の美観が、余りによろしいものですから、これから正直なところ維持管理が大変かなと思っています。ただし、いろいろな意味で、これだけの建物を我々がお預かりする以上、この魅力の何%、実は知られているのだろうかなと思っています。例えば、らせん階段の上の歩廊ですね、ああいった外の空間をどうやって使うか、駐車場をどう使うか。団体Bの中で話をしていると、もっと駐車場を活用して、いろいろな外でのイベント、野外イベントのノウハウを聞くと、私の何倍ものノウハウをお持ちの方なので、そういうところと組んでいくというのは非常に活性化ができていくかと思っています。多分、今までやっていないような、びっくりするような策が出てくると思うのですが、そういった価値の引っ張り出し方というのは、我々、足りなかったと思っておりますので、これから引っ張り出せればと思います。

徳永委員 会計の関係でお尋ねいたします。様式7のア・ウによってお尋ねするわけですけれども、私の方では人件費と損害保険料について、特に見たわけですけれども、特に人件費の方は13人体制でやるということですので、その中で正規職員またはアルバイト、何人と何人でやるのか聞かせてもらいたいのですが。

団体B 基本的には、正社員を13人という形で、館長を含めて考えております。ただ、お客様サービス課の部分は4名ということで、これは時間の中で4名という形でやっているのですが、ここの部分は地元の方、お仕事をしてくださる方、特に女性等がこの中に入ってきますので、そういう意味でアルバイト、いわゆるパートという形で、例えば正社員1のところはパート2人という形です。そのような体制になるということを考えております。

徳永委員 金額を見ると5年間定額ですので、昇給がないということになりますけれども、特にアルバイトの方には昇給するようにお願いしたいと思います。

団体B 分かりました。

徳永委員 それから、損害保険の計上がないので、損害保険料です。何か事故があった場合の保険ですけれども。

団体B 保険に関しましては、保険料というものを別紙4-1、総務関係のところ。年間いくらくらいですか。

団体B 42万です。

徳永委員
団体 B
徳永委員
菊野委員

42 万円ですか。これは毎年ですか。

はい。

そうですか。ありがとうございました。

先ほどの質問で、課題として、これまで訪れたことのない人たちが足を運びたくなるような会館を目指していきたいというようなことを、こちらの提案書に書かれているのですけれども、そういった方々の利用者を増やす、また来館者にワクワク感をもたらすような新鮮な風を吹かせる、稼働率向上に向けて、地元企業の強みを発揮し、利用者の拡大を図っていききたいと、具体的にはどのようなことを事業として実施しようとお考えでしょうか。

団体 B

資料 1、具体的な平成 30 年度のプログラムを見ていただきますと、資料 1 の平成 30 年度の 22 番の交流事業 2、ファミリー向けに街中クイズ&野外イベントというようなこととか、その下の交流事業もそうなのですが、例えば街中クイズというのは、これは新津の商店街の方にご協力をいただきまして、地元企業の強みとして、いろいろなポイントにクイズを置き、親子で実際に街中を回っていただいてクイズを 10 問答えていただくということで、それで会館に帰ってきて、一日親子で野外イベント等で楽しんでいただくという形で、今まで会館でこんなことをやっているのというものはないものですから、ただ音楽鑑賞したり自分の参加するものしかなかったですから、クイズであれば気軽に来られるなど。

それから、意外と秋葉区の方で東京に行ったりとか、県外に出られた方が帰省する時に子どもを遊ばせる場所がないということで、夏休みにせっかく帰省されるお子さんの遊び場所が足りないねということになってしまうので、そういったことも含めて時期を考えながら、夏休みに帰って来た子どものためにエントランスロビーでも何か作品を展示したりというふうに持っていきたいと思えますし、そうすれば新しいお客さまにもなりますし。

それから、まちなかの商店街の方に協力していただくことによって、文化会館ってこんななんだ、こんな協力ができるのだということで、実際にまちの方にいろいろ使っていただくということにも、つながっていくのではないかと思います。従来と同じことをやるだけでは、その積み重ねをすることも大切なのですが、新しく間口を広げていくことが難しかったので、こういったような魅力あることもしていきたいと。

もう一つは、魅力あるものの発信ということにつながるかもしれませんが、創作ミュージカルもそうなのですが、創造事業のところ、今回 2 本入れているのですが、区の素材と人を活かしたビデオ制作と上映ということなのですが、最終的には映画を作りたいと思っているのです、本音を言いますと。ちょっとそこまで時期尚早だと思って今回活字にしなかったのですが、ある程度ビデオの制作から自分たちでドキュメントを撮って映画をやって、そうやって脚本を置いて、まちなかの魅力を発信して上映すると。この中の上映だけにとどまらず、ホームページ、ユーチューブなどに載せて外に発信して、自分たちの目で見て映画作品にしたい。ある程度のものを映画祭とかにノミ

ネットしたいと、実は秘かな野望があるのですが、そういったことを含めて、いろいろな人を巻き込むという、従来なかったものをやろうと思います。

菊野委員 「地元企業の強みを発揮し」という部分に関しては、どのようなことができそうでしょうか。

団体 B 今のことについて、多少プラスアルファになりますが、弊社は 25 年、地元でやって来ているのですが、商店街、特に地元企業の方々と密接な関係を築かせていただきました。それを活かして、今ほどいろいろなイベント等の話もありましたが、当然、我々が一団体でできるようなことではないと思っております。ただ、うちが中心となって地域の企業、商店街の方々と手を組むことによって、また魅力あるイベント的な、今、お話がありましたけれども、帰省したお父さん、お母さんが孫、子どもたちを連れてきました。その人たちが、私たち、お父さんたちはここで育ったのだよということを楽しく話ができるような、そういう秋葉区、そういうイベントを我々単独だけではなくて地元の企業、商店の方、または一般のボランティアの方を含めて、そういうものを作っていきたい。

すみません、この中には盛り込むことができなかつたのですけれども、我々が実際、運営をさせていただくことになったところでは、もうすぐにも立ち上がることができる、そういうものも温めてありますので、今、申し上げた我々が地元でやってきたことをプラスアルファ、また皆さんの力を借りて進めていく。これは具体的な名前が出せないのですが、そういうことを、すぐにでもできる用意がございます。それで、一層の魅力ある文化会館を中心とした事業を進めていこうと考えております。

菊野委員 ありがとうございます。今ほどのお話をお聞きしながら、地元による地元のための文化会館という部分についての、強い思いというのはお聞きすることができたのですけれども、この文化会館のミッションとして、秋葉区の魅力を外に発信するというのも加えられているのですが、その部分について広報という点も含めて、いかがでしょうか。

団体 B 秋葉区全体、里山を含め、鉄道のまちであること、それから石油の里があるということを含めまして、魅力満載でございますので、秋葉区の魅力はこれから作ろうとする情報誌という中で、またいろいろな形で掘り下げたテーマで、通常のイベント情報だけではなくて、秋葉区魅力を発信するようなものを掲載していきたいと思っております。

それから、秋葉区の方々にいろいろな情報をいただくことと同時に、人そのものが財産という形で、いろいろな文化芸術、あるいは生涯学習的なものも含めて取り組んでおられる方がおりますので、人にクローズアップしながら、そこでお邪魔してお話を聞いて、またその地域のことを紹介していただいでやっていくと。伝統芸能にしても、小合のところに 400 年くらい続くようなお祭り、踊りもありますので、そういった伝統文化、芸能といったところも、皆さん地域の中にどっぷりつかって、ステージに上がっていただくなり、我々が何かの形で一緒にできるようなことがないかと思っております。

で、やっていきたいと思っています。

秋葉区全体で文化会館を祝うということで、最初の平成 30 年度は開館 5 周年を迎えますので、秋葉区全体の開館 5 周年で「第九」を歌うということを実業に入れていますが、これについても秋葉区全員参加で一つ大きな「第九」で、この文化会館を祝うようなことができないかと。そこからいろいろなものをブレイクダウンして、一つの団体、あるいは合唱団的なものを作っていくということで、その中で出てくるものから、秋葉区全体の魅力を発信できるような人たちを集めながらやっていくということで、人を集めるための仕掛け、事業という形で、まんべんなく秋葉区全体にわたるものも今、考えております。

先ほども余談で話したのですが、何かバスでも 1 台チャーターして秋葉区全体の方を文化会館に連れて事業をやれたら本当にいいねと話すが、問題は地元の企業として期待しているのは協賛、スポンサー企業を集めて、文化に対して冠コンサートをやっていただいて、そのいただいた分を足のご不自由な方とか、来られない方を送迎できるようなところまで、何とか頑張ってくれとお願いしたのですが、そういったことまで含めて、秋葉区全体で何かできることを真剣に考えていきたいと思っています。

杉浦委員

私の方から大きく二つお伺いしたいのですけれども、一つは事業についてなのですが、先ほども秋葉区らしい事業ということで、具体的には言えないというお話もありましたし、オリンピック・パラリンピック関係の関連事業というお話もありましたし、文化観光、集客につながるような事業ということもあったのですが、具体的に、どこからでもいいのですけれども、今、掲げられているリストの中からでもいいのですが、例えば御社が指定管理をやられた時に、これが目玉事業になるであろうというものについて、もう少し具体的にご説明いただかないと、それが実現できるのか、できないのか判断できないので、もう少しお話しいただきたいというのが一点です。

二点目が、人材についてなのですけれども、人材の育成をしていきますと。区の中にも文化的な人材はいらっしゃるというお話をされていたのですけれども、実際に文化会館を運営する上で、その担い手になっていくような専門的な人材を育成していくという観点で考えると、どのような仕組みを人事体制の中に導入されようとしているのか。あわせて、今 13 人の体制でということになっていますが、公の施設の管理運営実績等のご経験がある職員というお話をいただいているのですが、元館長は分かったとして、他にどういう施設でご経験がある方がいらっしゃるのかということで、大きく事業の点と人材の点で、少し補足をいただけますか。

団体 B

まず、事業のことをございますけれども、例えばクローズアップするもので言いますと、創作子どもミュージカルという点なのですけれども、これは私が鹿児島におりました時に経験した話なのですが、「この花咲くや姫」という演目が上演されて、昼夜 2 回公演だったのですが、小学校 3 年生から中学 3 年生まで、3 年間プログラムでした。これは非常に親御さんも熱心です

が、会館側も専任スタッフが付いて3年間落ちこぼれないように、ハードなスケジュール、学校との送り迎え、練習ということで、完成のプロセス、当時、私もマスコミにいたものですから、取材させていただきましたが、感動、感動で、最後に本番もそうですが、人が成長するというのはこうなのかな、親と子どもが向き合うというのはいかなのかなと。地域を知るといことはこんな方法があったのかなということがございました。この感動体験をぜひこちらでも持ちたいなと思っております。

従いまして、脚本家が正式に、これは決まってから動き出そうと思っておりますが、こちらの方と提携して、実際に中に入らせていただいて、どんな秋葉区の素材でどのような物語ができるのか、曲ができるのか。これをもとに、実際に秋葉区民を中心に公募を始めて、1年目はダンスの基本、歌の基本をやりながら、2年目にステップアップするという感じで、3年計画にしておりますが、具体的にはかなりインパクトのある事業だと思っております。

具体的にはプロの方と提携しておりませんので、どういう素材になるかは分かりませんが、吉田千秋物語になるのか、もっと違った、鉄道物語になるのか分かりませんが、あるいは里山物語になるのか分かりませんが、秋葉区を肌で感じていただいて、見て、プロの方に作品化してもらおうと思っております。これが大きなねらいで、地域の子どもの夢も乗せる大きな事業になろうかと思っております。具体的に言えるのはそこまでです。

簡単な事業として、先ほど具体的にご紹介したのがクイズで街中へ探検に出ると。こういったものについては、秋葉区にまつわるクイズを要所要所に置いて、親子で答えてもらうというものですから、分かりやすいかなと思っております。事業についてはそういったことです。

それから5周年のところで、「第九」を歌うということで、もし4月から私どもが受注させていただいたとして、人を集めて「第九」を練習するのは非常にハードなことだと思っております。しかしながら、オーケストラや合唱団が会館でないというのは寂しいものですから、何とか合唱団を作りたいと思っております。「第九」で関係していただいた方々を中心に、継続的に合唱団のグループができればいいかなと思っておりますが、そういったことも含めた、含みのある事業にしていきたいと思っております。

人材育成についてのところですが、皆さん、文化会館の中で皆さんお耳にするレセプションという、人をおもてなしする、接遇、いわゆるモグリといいますが、チケットを切って中へ誘導する、ご案内する人がおります。ここで足りなくて、私もこの会館で取り組んだのは、オモテナシストということで、ダブルミーニング、おもてなしをする心、それから舞台の表と裏ということで、裏方は舞台の照明、音響などをやっている人たち、表は表の人たちということで、そのダブルミーニングでオモテナシスト養成講座を持ったのですが、これは私が講師をやりながら、そういったお客さまを迎え入れる人を養成したいと。これをもう一回チャレンジしたい。これを会館の職員だけでなく、もっといろいろなところへ波及させたいと。

それから、私も少し専門書を書いたり、大学院にも行っていましたので、アーツマネジメントについて講座を持ちたいと思っております。基本的にアーツマネジメントの専門的なプログラムというのは、私も10講座くらいできる素養がありますので、そういった形で専門育成を自前でやろうと。しかも、文化会館が現場になるということなので、実践を踏まえた講座というものも今、視野に入れております。

とにかく人材育成は時間がかかりますので、こういったことをやっていくためには我々自らやっていたいかなければならない。人の力を借りたプログラムは、お金をかければいくらでもプログラムはできています。ですけど、現場にしかないプログラムを組むためには、現場で何かできることは我々の中で育てていくということをやりたいと思っております。

それから、実際にそういった経験があるかということで、現在、考えているのは、文化会館で実際に舞台経験のある人、あった人。ちょっとここまでしか今のところ言えませんが、具体的なアプローチは始めていませんので。いくつか声をいただいている人もおりますので、文化会館でのそういう経験がある人をももちろん中心に持ってきて、そこから新しい人を育てていくというふうにしたいと思っております。以上でございます。

杉浦委員 ありがとうございます。

司 会 間もなく時間となりますので、これで最後の質問とさせていただきます。他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

杉浦委員 もう一つだけ。その事業をやった結果、全体の稼働率の目標をどのくらいに考えられていますか。

団 体 B なかなか即答できないのですが、公立文化施設協会の中では60%までいくと、多分、労働者は休暇もとれないだろうと言われていますが、来週、宝塚へ行って観てくるのですが、この前のテレビを見られた方もおられるかもしれませんが、宝塚歌劇は稼働率が90%くらいを毎回超えています。ここまではさすがにいかない。しかし、我々としては65%から60%の間くらいをねらった稼働率を維持していきたいと思っております。これは私個人の目標でございます。

司 会 以上で質疑を終了します。ありがとうございます。団体Bの提案者の方はご退室ください。

(休 憩)

司 会 公開プレゼンテーションを再開します。団体Cの提案者の方は入室してください。

プレゼンテーション時間は20分です。それでは、始めてください。

団体C プレゼンテーション（省略）

団体 C 質疑応答

司 会 続いて質疑応答に入ります。ただ今の説明について質問がございましたら、挙手にてお願いいたします。

山田委員 現在、担当されているということで、秋葉区文化会館の魅力をどうとらえられていらっしゃるのか。あるいは秋葉区文化会館の価値をどうとらえていらっしゃるのか、ご説明いただければと思います。

団体 C 魅力としましては、施設の、特にホール部分につきまして、市民利用がしやすいキャパと、音響の点で使っている皆さまから非常にいいという評価をいただいています。独特な、特徴のある外観、デザイン、そういったところがやはり、秋葉区の文化施設としてのランドマークといたしますか、そういった点が会館の魅力と感じています。

団体 C 補足させていただきたいと思うのですが、市民の皆さまの熱意でこのホールはオープンまでこぎつけたと思っております。オープン以来、市民の皆さまに非常にご協力いただいております。我々の提案させていただいた内容を非常にご理解いただきまして、市民参加型の事業や会館の運営に対しましても、ボランティアという形で非常に多くの皆さまにご協力いただいております。何よりもそれが一番の魅力だと思います。

公共文化ホールで、こういった地域に根ざして、市民の方と一緒に運営しているホールというのはなかなか、ありそうでない。そういう意味でも、私どもは 50 ホールくらいの運営しておりますけれども、その中でも群を抜いて市民の方と協働で、会館を育てていけるホールだと思っております。それが一番の魅力だと私は思っております。

山田委員 ありがとうございます。もう一つお願いしたいと思います。

利用者数、稼働率が増加しているけれども、使用料が伸び悩んでいる課題をお持ちだということで、一般利用の促進をというお話で、多方面の利用促進を図っていききたいというお話でしたけれども、具体的に何か紹介できるものがあれば教えていただきたいと思います。

団体 C 施設利用料につきましては、900 万から 800 万、700 万という形で動いている部分もございますが、今年度につきましては割と好調といたしますか、いい使用料金になりそうなのですが、その一つの原因といたしますか、高校演劇フェスティバルを昨年実施いたしまして、そのつながりの中で、今年度、演劇の練習というところで利用が増えております。そういった団体をもう一度、地域の見直しをして、企業も含めて営業的な活動もしていくことで上げていきたいと考えています。

団体 C それに加えまして、利用方法についての提案ですね。通常利用に加えまして、こういう利用方法もありますよとか、そういった具体的な内容を示したリーフレットを作って配付したいと思っておりますのと、市民の方はもとより、例えば音楽関係者の方ですとか、映像ですとか、メディアの方々に向けても、こういった非常にフォトジェニックなフォルムですし、そういった部

分でもアピールをして、利用を促進していきたいと思っております。提案させていただいておりますレコーディングプロジェクト、これはなかなか第1期では実現できなかったのですが、これを具体的に促進していきたい。取り組んでいきたいと思っております。

徳永委員 会計の関係でお尋ねいたします。様式7のア・ウに基づいて、人件費と保険料について検討したわけですが、この5年間については、金額に動きがありません。計画だから仕方がないのかもしれませんが、特に人件費の関係で職員あるいはアルバイトの昇給がないのではないかと心配をしております。

人件費の関係では、30%ほどを計上しているわけです。他のものと比べますとだいぶ少ないので、外部委託をしているのではないかと考えられますけれども、最後の段階で、管理運営体制の図を見ると、舞台担当が業務委託ということは外部委託という意味ですか。

団体C はい。舞台につきましては外部委託です。

徳永委員 これは、人件費の中には含まれていないということですか。

団体C 管理費の一番下の欄に、舞台管理費という形で表現させていただいております。

徳永委員 分かりました。ありがとうございました。

団体C 人件費につきましては予算という形で、当然、アルバイトですとか、パートの最低賃金を割らない形で、若干、昇給を見込んで設定しております。

菊野委員 先ほど、この文化会館の魅力について、市民が財産であるというお話をいただいたのですが、秋葉区、この地域ならではの魅力というものについては、管理者としてどのように感じてこられたのでしょうか。また、その芽が出ているとして、それをこんなふうに育ていきたい、発信していきたいということがあれば、お聞かせください。

団体C 秋葉区の魅力ですね。自然ももちろんですが、作家の方や文学者、音楽家などを輩出している地域だと思っていて、非常に素晴らしいと思っています。様々な文化施設もございまして、第1期ではその部分との連携などがまだ行き届いていない部分もあったと思うのですが、それを第2期で連携をして、お互いに相乗効果をもって、より地域の魅力として発展させていけるような取り組みをしていきたいと思っております。

街中探検隊ですとか、子どもたちと一緒にまちのニュースを作ろうということで、まちを歩いておまして、いろいろなリーフレット等に取り上げられている以外の魅力というものも発見することが多いです。商店街の方とのふれあいですとか、そういった部分を事業の中でも形として、創作物ですとか、ニュース映像などで形にしまして、それを外に向けてもこれから発信していけたらいいなと思っております。

菊野委員 今ほど、外に向けて発信というお話があったのですが、全体的な広報ということについて伺いたいのですが、こちらの提案資料には複合的な広報戦略を引き続き展開していくということなのですが、新規の、こういった

ことをしていきたいという、新規の部分がありますか。広報に関して。

団体 C

広報ですか。これは今、4年目にして初めての事業で、ポップスコンサートなどを取り上げているのですけれども、これはこれまでの手法とは少し違った展開が必要でして、例えば駅でのポスター展開ですとか、新潟市の大手ショッピングモールでのポスターですとか、映像のオンエアですとか、そういったところにトライしています。その辺はこれからも活用していけるかなと思っております。

予算的なこともありまして、なかなかテレビスポットを打つとか、ラジオスポットを打つというのは着手できていないのですけれども、その辺の可能性も当たっていきたいと思います。新しい展開としては、その辺をこれからは昇華させていきたいとは思っております。新しい事業を提案するに当たっては、既存のリーフレット、パンフレット、チラシ以外にもっと内容を伝えるような手作りのチラシといったものを作って周知を図っていくとか、そういった形での取組みは着手していきたいと思っています。

菊野委員

分かりました。

杉浦委員

ありがとうございました。今、1期目をやられて、2期目に入っていくわけですけれども、プレゼンを拝聴すると、実は余り変わっていないというか、今までの継続が非常に多い印象があるのです。今までやってこられた1期と、次にご提案いただいている2期で、もう少し大きく見た時に、廃止した、もしくは改良した点、新しくした点というのがあれば教えてください。

団体 C

文化事業について。

杉浦委員

いや全体的に、今まで5年間やってきて、ここは課題で反省したから変えてみましたという点があれば、こういうふうに変えましたということを教えてください。なければならないでいいです。

団体 C

約5年間やらせていただいた中で、いろいろ苦労した点がございます。一つは、特徴的な建物であるがゆえに動線が分かりづらいとか、そういったところに対しては細かな改善ですが、サインを付けたり、多くあるのはホール利用の時、駐車場が円形になっていますので、どちらが入口で、どちらが出口か分かりづらいというところもありますし、そもそも226台しかないのに、公演によってはあふれると。

そういったところで今回、お笑いを2回公演する中で、なかなか駐車場が厳しいかなというところで、近隣にある地域振興局さんなどをお願いをして、臨時の駐車場を借りることができました。そういった近隣、地域の力を借りて、良くできるものはどんどん良くしていきたいと。そういったものに対しては、利用者懇談会や運営協議会といったものを通して、いただいた意見を反映させて、少しずつ改良していきます。

団体 C

事業につきましては、私ども、1期目はゼロからの出発でございまして、育成にしても交流にしてもまだ4年目でございまして、なかなか根づくまでには少なくとも10年はかかると考えています。今、本当にやっとまいた種が芽吹き出したかなという段階だと思っています。それをもとにいたしまして、

この事業の組み立てに関しましては、大きな変革というものは加えませんでした。この路線でもう少し、人材育成等に取り組んでいきたいと思っております。

加えたものに関しましては、これまで着手しておりませんでした講座関係。鑑賞するだけではなく、自分たちで何かを習得する、学ぶ。そういった機会を提供していこうというのは、第2期目で新たに加えたことでございます。

杉浦委員

細かい話なのですが、代表団体の本社の方というのは、5年間、4年ぐらいを通して、どのようなことをしてくれたのかということと、この会館の事業の担当者と意見が合わなかった場合はどうするのでしょうかという素朴な疑問があるのですが。

そもそも、何をしてくれたのかがよく分からないのですが。

団体 C

基本的に本社機能としましては、会館に勤める職員は我々の社員になりますので、基本的な社会保険とか給与計算は本社でやりますので、あとは経理の処理ですね。もちろん、一時的な締めは会館でやりますが、支払業務であったり、そういったものはこちらでやります。それと月次、市との連絡、報告をやります報告会、利用者懇談会などにつきましては、本社からも出席させていただきまして、そういった意見を拝聴して、館のみんなと話し合いながら、どれからやっていこうかといった計画を立て、それが進んでいるかどうかというものを一緒にウォッチしていくといたしますか、やっていくと。

時には手伝いますし、こちらにいる事業の担当者は、会館の方から上がってきた、こんなことをやりたい、あんなことをやりたいという意見。それをこちらの文化事業企画室、10名おりますけれども、いろいろなジャンルの経験がありますので、その中で、こんなことはどうかと企画を挙げて一緒にやっていくと。

意見が合わなかった時というのは、基本的には提案させていただいた提案書、これが我々の事業計画でありますので、それと毎年出させていただいています事業計画、それをきちんとやっていく、それをやっているかどうかというのを一緒に。しかもそれが、あとは市の意向に合っているかどうかをあわせて一緒にやっていきますので、合わないこともありますけれども、それはよりよくなることについては、前向きにやっていくというお答えでよろしいでしょうか。

杉浦委員

あと細かい点で大事な話として、託児サービスの具体的な中身と、費用をどうやって手当てするのかということと、軽食喫茶コーナーは続けるというイメージなのでしょうか。

団体 C

託児サービスにつきましては、これから考えていかなければいけないと思っておりますけれども、他施設でいきますと、概ね一人500円か1,000円をいただいて、公演時間中、空いている部屋で預かると。それに当たっては、社会福祉協議会さんとか、保育サービスというか、保育士に登録している方に来ていただいて一緒にやるということをやっておりますので、こちらの会館でも、子育て中の母親、父親の方にゆっくり観ていただく機会を設けるためにやっ

ていきたいと考えています。

軽食につきましては、現在、カフェを運営していらっしゃる事業者さんもいますので、基本的にはそこが継続していくのではないかと考えています。そこと連携して、楽屋への飲食の提供などをやっていますし、今後もやっていきたいと思っています。

杉浦委員
司 会

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上で、質疑応答を終了いたします。ありがとうございました。団体Cの提案者の方はご退席ください。

それでは、新潟市秋葉区文化会館指定管理者申請者評価会議の公開プレゼンテーションを終了します。本日はお疲れさまでした。